新潟市

地域福祉コーディネーターの手引き

地域福祉コーディネーター活動の手引き作成にあたって

現在、地域には、高齢者の孤独死や虐待問題、障がい者の自立支援に伴う受け皿の問題、子育て支援等、複雑かつ多様な課題が存在している一方で、人的資源や社会的資源が各地域に存在しています。

地域の課題に対しては、住み慣れた地域で自立した生活を送るために人的資源や社会的資源を活用し、公的な福祉サービスとうまく組合せ、地域に密着した包括的・総合的な支援が求められています。

このような中、厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」報告においても、小地域活動を基盤とした地域生活支援システムの再編が課題とされており、地域福祉をコーディネートする人材の必要性が示唆されています。

このことから、本市において地域福祉のコーディネート役となる地域福祉コーディネーターの育成を行なっています。

この地域福祉コーディネーターが地域の中でキーパーソンとなり「気づく」「つなぐ」「つくる」というキーワードに基づき活動し、顕在化してきたニーズだけでなく、潜在化するニーズにも対応できる支援システムを構築していくことが期待されています。

この手引きは、地域福祉コーディネーターが地域でどんな役割を持ち、何が期待されているのかを広く知っていただくとともに、地域福祉コーディネーターの方々の活動マニュアルとして活用していただくために作成しました。

今後本市において、地域福祉コーディネーターがキーパーソンとなり、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域独自の支え合いシステムの構築が期待されています。

１．地域福祉コーディネーターとは

少子高齢化・核家族化の進行に伴い家庭内の相互扶助機能が低下する一方で福祉に関するニーズは多様化しています。誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくためには、問題を抱える家庭だけでなく、その地域生活全体をサポートする視点に立つことが重要です。

例えば、ある高齢者の介護に携わる高齢者福祉の専門職の方が、日ごろの活動をとおして、その介護者の家族の問題に気づいた場合、高齢者福祉の専門職のみで解決するのは困難です。その場合、関係機関の連携による横断的な対応・支援が必要となります。また、そのような問題は他の世帯にも存在し、地域の課題となっているかもしれません。このような個別の課題や地域のニーズを的確に把握し、行政や社会福祉協議会、福祉施設等と連携・調整しながら、福祉課題の解決に導く「つなぎ役」として、福祉専門職を対象に研修を受けていただき、地域福祉の知識・技術・能力を備えた方を「地域福祉コーディネーター」と位置付けています。

２.地域福祉コーディネーターの活動と社会福祉協議会ＣＳＷ(コミュニティソーシャルワーカー)について

地域福祉コーディネーターの活動は、地域福祉コーディネーターである福祉専門職の方が、普段の仕事の中で気づいた生活課題に対し、自分だけでは解決できない場合に関係者で集まり、課題を共有し、連携を図りながらそれぞれの立場で支援し、解決していくことを想定しています。その際、つなぎ役の中心となるのが、社会福祉協議会のＣＳＷです。社協ＣＳＷは現在、各区に配置されており、地域福祉コーディネーターの一員であるとともに、関係者との調整および課題解決のための新たな仕組みづくりの中心になって関わっていきます。

＜コミュニティソーシャルワーク（ＣＳＷ）とは＞
地域において生活上の課題を抱える個人や家族に対する個別支援と、それらの人々が暮らす生活環境の整備や住民の組織化等の地域支援をチームアプローチによって統合的に展開する実践です。

３．地域福祉コーディネーターの活動イメージ

① 気づく：普段の仕事の中で、既存の体制では対応できない個別のニーズや地域のニーズを把握する。

↓

② つなぐ：社協ＣＳＷと連携し、ニーズ解決に必要な人と人とをつなぐ。
（協議、協働の場の設定。ネットワークを構築）

↓

③ 社協ＣＳＷが中心となり専門職等による**ネットワーク会議**を開催。
（課題やニーズの情報提供と整理、支援方法の確認、設定等）

↓

④ つくる：社協ＣＳＷと連携し関係機関等と協議、協働しながら地域の課題解決に向け、支援等の仕組みづくりを目指します。

４．具体的な役割として（事例をもとに）

【事例概要：多問題家族の事例】

・本人（母）：70 代、女性

・軽度の認知症があり、要介護１だがサービス利用はなし

・遺族厚生年金受給中

要介護認定更新申請で介護支援専門員（地域福祉コーディネーター）が訪問した際、前回調査では一人暮らしと聞いていましたが、離婚した長女とその娘（孫）が同居していました。お母さんの生活について、長女に話を伺ったところ「娘（孫）が不登校気味で悩んでいる。私も働いておらず、うつ症状があり体調がすぐれない。母の介護も重なり困っている」と相談を受けました。

◎役割１

「気づく」：個別の課題や地域のニーズを把握する。

上記の事例から、訪問をきっかけとして、本人（母）以外の者の生活状況に気づく。

※訪問先でその世帯がどんな生活課題があり、悩んでいるのか。また、その地域ではどんなことが課題なのか、地域住民がどのようなことに関心を持っているのか、何を求めているのか、常にアンテナを張って情報を集めることが大切です。

◎役割２

「つなぐ」：社協ＣＳＷと連携し、人と人とをつなぐ。

上記の事例から、気づいた生活状況や課題を社協ＣＳＷに伝える。その後、ＣＳＷが中心となり、問題解決に向け、各種福祉専門職や関係機関との**ネットワーク会議**を開催する。（ネットワーク会議のメンバーはケースによって参集者が異なります。）

※１．個々の生活課題を地域の課題と捉え、様々な人や機関への働きかけが必要かもしれません。また、課題解決がまちづくりのきっかけになるかもしれません。

※２．地域の生活課題などを把握し、その課題を地域住民や関係機関と共有しながら、問題意識をもつことが大切です。

※３．地域の福祉課題にはプライバシーに関わることもあり、伝え方の工夫や関係者の同意を必要とすることもあります。また、課題を課題として認識していない場合もあるため、課題解決の必要性を伝える場合は、その場にあった方法で働きかける必要があります。

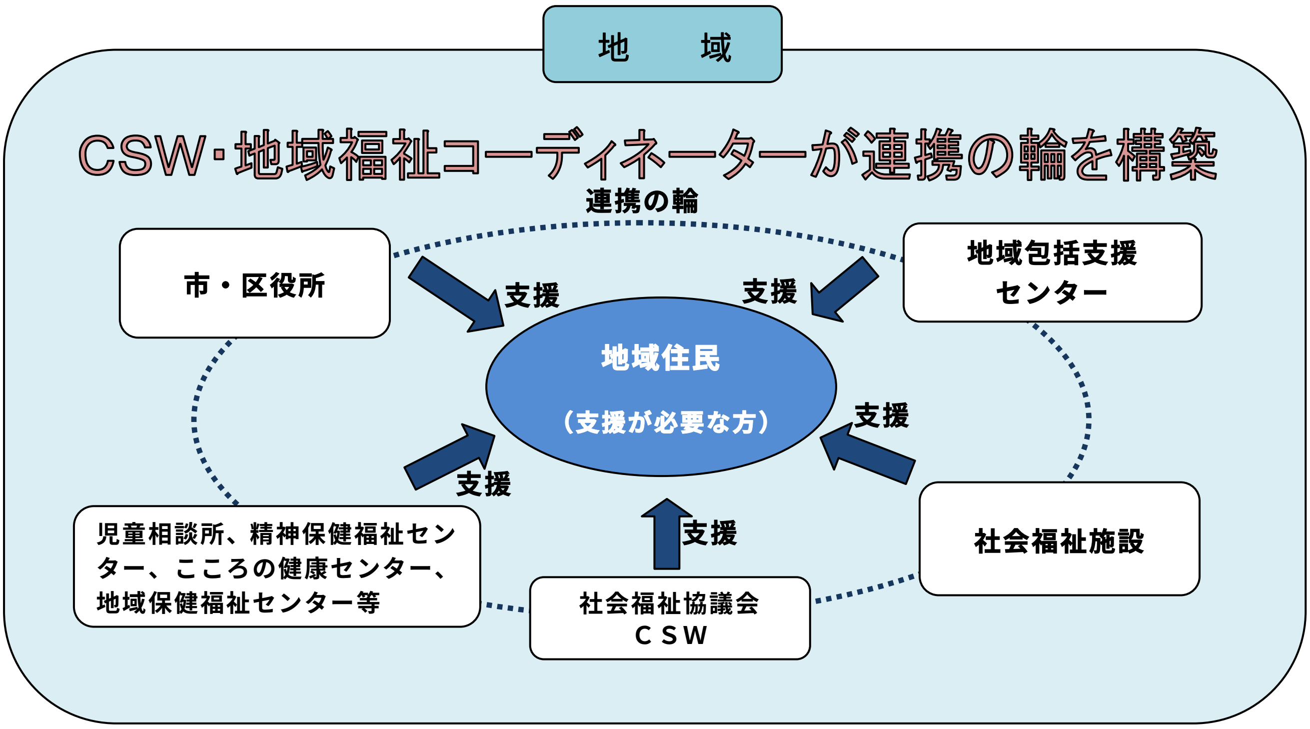
◎役割３

「つくる」：社協ＣＳＷと連携し関係機関等と協議・協働しながら「この世帯にどのような支援が必要なのか」、「この地域にどのような支援が必要なのか」個別や地域の課題解決に向け、支援等の仕組みづくりを目指します。

上記の事例から、福祉専門職とのカンファレンス、ネットワーク会議につながり、この世帯や地域にどのような支援が必要なのかを検討し、対応する仕組みや体制をつくります。

※協議の場を設けると、参加者のアイデアや想いが、きっかけとなり、新しい支えあいにつながることも期待できます。
また、新しい福祉課題の発見にもつながると思います。その様々な課題を解決していくためには、いろんな話合いの場が必要です。場合によっては「地域のしくみをつくり直す」ことが必要になるかもしれません。

地域福祉コーディネーターの概念図



※ＣＳＷと地域福祉コーディネーターは「気づく・つなぐ・つくる」をキーワードに『連携の輪』を構築しましょう。

最後に・・・

本市では平成 23 年度から地域福祉を支える人材として、地域福祉コーディネーターの養成が始まり、これまで行政職員を始め、社会福祉協議会職員、社会福祉施設職員、地域包括支援センター職員等、幅広い職種の方が研修を受講しています。

地域福祉コーディネーターは、所属している組織があり、それぞれが専門分野や専門性を持っているところに特徴があります。基盤となる専門的な業務に地域福祉の理念等を加えることにより、地域福祉推進のキーパーソンとして期待されます。

また、住民福祉活動は住民同士の支え合いではありますが、時には困難や複雑な事例にぶつかることがあると考えられます。そのため、住民の地域福祉活動がスムーズに進むよう住民と関係者とのネットワークづくりや福祉課題を解決するための資源探しを進める役割もあると考えます。

以上のことを踏まえ、地域福祉コーディネーターは「気づく」「つなぐ」「つくる」というキーワードと社会福祉協議会ＣＳＷや関係機関・団体等と連携・協働し、地域福祉推進のキーパーソンとして役割を担っていただきたいと考えています。